

総合学術研究科における3つのポリシー【生命システム科学専攻】

■教育理念・目的

博士課程前期では、生命科学、食品資源科学、環境科学に関する高度な教育研究の中で、人類が抱える諸問題の解決に取り組むことができる人材を養成することを目的としています。

博士課程後期では、生命科学、食品資源科学、環境情報学を含む環境科学及び生体制御学に関する高度な教育研究を通して、人類が抱える諸問題の解決に取り組める専門性の高いリーダー的人材を養成することを目的としています。

◆学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

博士課程前期では、教育課程に従い、人材育成目標及び学修成果に裏付けられた力を身に付け、所定期間を在学して必要とされる単位を修得し、修士論文審査及び最終試験に合格した学生に「修士（生命システム科学）」の学位を授与します。

博士課程後期では、教育課程に従い、人材育成目標及び学修成果に裏付けられた高度な学的知識と実践力を身に付け、所定期間を在学して必要とされる単位を修得し、博士論文審査及び最終試験に合格した学生に「博士（生命システム科学）」の学位を授与します。

【人材育成目標】

博士課程前期では、生命科学、食品資源科学、環境科学等の諸問題に対し、高度な専門知識、創造力及び問題解決能力をもって柔軟に取り組むことができ、地球的視点から多面的に物事を考える能力を養成します。

博士課程後期では、生命・生物現象に係る機能とその資源的利用、その生物生存環境保全のシステム作ることを基本理念とし、遺伝子や細胞スケールから植物・動物スケールさらには圃場生産までの多様な視座に加えて、これに食品保存、生体制御の機能向上や環境情報の分野的視座を強化し、より広範に俯瞰的・総合的な思考力を修得したリーダーとなりうる研究者や技術者を組織的に養成します。

【学修成果】

博士課程前期では、高度な専門的知識を鳥瞰・応用でき、人類福祉の向上と地球環境の保全に対し、柔軟に取り組むことができる人材（技術者、研究者等）を養成します。

博士課程後期では、高度な専門的知識を鳥瞰・応用でき、人類福祉の向上と地球環境の保全に対し、柔軟に取り組む指導的役割を担う人材（技術者、研究者等）を養成します。

◆教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

【教育の特色】

博士課程前期では、広範な基礎・応用生命科学、環境科学、食品資源科学の科目履修によるそれぞれの分野あるいは複合領域で活躍できる人材の養成を行っています。

- (1) 多様な学生を受け入れるための幅広い分野の研究指導を行っています。
- (2) 研究成果を基盤とした産学官連携・地域貢献活動を推進しています。
- (3) 学術交流協定締結校からの留学生に対して英語で講義と研究指導を行っています。
- (4) 職業等に従事しながら大学院で学ぶことを希望する社会人の学修機会を一層拡大する観点か

ら、長期履修制度を導入しています。

(5) 計画的な指導を実施するために研究指導計画書を導入しています。

博士課程後期では、先端医療や農学研究につながる基礎・応用生命科学、生活の質の向上に寄与する食品・健康科学、人と自然にやさしい環境保全・修復・環境分析の多面的な研究への取組みを行っています。

(1) 産学官プロジェクト・地域貢献活動拠点への学生参画による実践的な教育研究活動を実施しています。

(2) プレゼンテーション力とコミュニケーション力を備えた研究スペシャリストの養成を行います。

(3) 広島キャンパス、三原キャンパスの教員の一部も博士課程後期に参画しています。

(4) 職業等に従事しながら大学院で学ぶことを希望する社会人の学修機会を一層拡大する観点から、長期履修制度を導入しています。

(5) 計画的な指導を実施するために研究指導計画書を導入しています。

【専門教育科目の構成】

博士課程前期では、「生命科学」、「食品資源科学」、「環境科学」の3分野から構成されています。

博士課程後期では、「応用生命科学」、「生体機能制御学」、「食品資源科学」、「環境科学」の4分野から構成されています。

【専門教育科目の特色】

博士課程前期では、生命科学、食品資源科学、環境科学の基盤を総合的に学び、さらに、専門に関連する深い知識、創造力、問題解決能力等を養う教育を行います。このため、専門科目と学際的科目、演習、英語による講義等を配置し、研究遂行及び学位論文作成等に対しては、主指導教員及び副指導教員によるきめ細かな指導を行います。

博士課程後期では、基礎研究のみならず応用を視野に入れた研究を重視し、学際性がありかつ先端的な知識・技術の講義やセミナー等を配置しています。また博士論文研究を多角度からきめ細やかに指導するため指導教員の複数名の副指導教員からなる教員団を配置しています。

【学修環境】

博士課程前期では、生命科学、食品資源科学、環境科学の研究に必須な最先端機器と優秀なスタッフを提供します。

博士課程後期では、これらの領域に加えて生態制御学の分野の研究に必要な最先端機器と優秀なスタッフを提供します。

【DPとの関係】

博士課程前期及び**博士課程後期**では、人材育成目標を達成するために高度な専門職業人や研究者を育成するための実験・演習や授業科目を配置しています。

【学修成果の評価方法に係る基本方針】

博士課程前期では、分野共通科目及び教育分野の科目ごとの「授業の目標」と「成績評価の方法」をコースカタログに示し、目標到達度をレポート、プレゼンテーション、討論への参加度、筆記試験による多面的評価基準により厳正に評価します（30単位以上の修得を課す）。

また、生命システム科学専攻において定めている「学位論文に係る評価基準」及び「学位論文審査及び最終試験実施要領」に従って、修士論文を提出し、研究内容のプレゼンテーションを行います。審査委員会（主査1名、副査2名以上）は、研究内容に新規な知見を含み、発表した研究分野において正しい知識を習得し、質疑応答を適正に実施できたかを評価します。

博士課程後期では、分野共通科目及び教育分野科目ごとの「授業の目標」と「成績評価の方法」をコースカタログに示し、目標到達度をレポート、プレゼンテーション、討論への参加度、筆記試験による多面的評価基準により厳正に評価します（10単位以上の修得を課す）。

また、生命システム科学専攻において定めている「学位論文に係る評価基準」及び「学位論文審査及び最終試験実施要領」に従って博士論文の予備審査に合格した申請者が、博士論文を提出し、本審査会（主査1名、副査3名以上）において、研究内容に新規な知見を含み、発表学術論文数が満たされていること、博士論文が適正に記載されていること、研究分野の知識を習得していること、博士論文の内容を適正にプレゼンテーションでき、最終審査会において質疑応答を的確に実施できたかを総合的に判断して評価します。

◆入学者受入方針（アドミッション・ポリシー：AP）

【求める学生像】

博士課程前期では、生命科学、食品資源科学、環境科学に関心があり、社会に貢献できる技術者や研究者を目指す人

博士課程後期では、生命科学、食品資源科学、環境科学や生体制御に関心があり、社会に貢献できる高度な見識をもつ技術者や研究者を目指す人

【入学者選抜の基本方針】

博士課程前期では、本学生物資源科学部生命環境学科並びに地域資源開発学科で掲げる「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」を身につけて大学を卒業した者、又は同等以上の能力を備えていると認定できる者について、各募集区分の選抜試験を通して大学院で高度な研究を行うためにふさわしい学力や能力を検証し、入学させます。

【推薦募集】

口述試問、研究志望調書、学部成績（又はこれに準ずるもの）の内容を総合して行います。

【第1次募集】

一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の各区分において、英語、専門科目（生命科学基礎及び環境科学基礎）、口述試問及び研究志望調書の内容を総合して行います。

【第2次募集】：定員が充足していないときに実施します。

一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の各区分において、英語、口述試問及び研究志望調書の内容を総合して行います。

[秋季募集]：定員が充足していないときに実施します。

一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の各区分において、口述試問及び研究志望調書等の内容を総合して行います。

[外国人留学生特別選抜：学術交流協定締結校対象]

成績証明書、推薦書、英語及び研究志望調書の内容を総合して行います。

博士課程後期では、学部を卒業し、大学院修士課程あるいは博士課程前期を修了した者、又は大学の学部や専門学校を卒業し、社会での業務の内容が大学院同等以上と認定できる者について、各募集区分の選抜試験を通して大学院で高度な研究を行うためにふさわしい学力や能力を検証し、入学させます。

[第1次募集] 口述試問及び研究志望調書等の内容を総合して行います。

[第2次募集] 定員が充足していないときに実施します。

[秋季募集] 定員が充足していないときに実施します。